2015年12月8日・日本パブリック・ディベート協会制定
2017年11月7日 省エネ政策提案型ディベート・コンテスト実行委員会制定
2018年11月28日 パブリック・ディベート・コンテスト実行委員会制定
2019年8月21日 パブリック・ディベート・コンテスト実行委員会制定
2019年11月12日 パブリック・ディベート・コンテスト実行委員会制定
2021年9月6日 パブリック・ディベート・コンテスト実行委員会制定

政策提案型パブリック・ディベート・ルール

1 目的

政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聴き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論するゲームである。伝統的なディベートのスタイルから自由になって、このようなディベートを行うことによって、市民として資源・エネルギー・環境問題等の社会的問題について考察を深めることを目的とする。

2 参加者と運営

- (1) チームで対戦することとし、1チームはディベーター4～10名で構成し、各ディベーターは1つの大会の予選試合において1試合は出場しなければならない。1つの試合において出場するメンバーは、スピーチ（質疑応答も含め）を最低1回は行うものとする。
- (2) 試合は司会者が進行、計時係が計時し、複数の審判が評価と判定を行う。
- (3) 試合の勝敗について審判はルール、及びガイドラインに従って評価を行い、審判の代表者が講評を述べる。

3 政策提案と討論

(1) 社会的問題と政策提案

資源・エネルギー・環境問題等の社会的問題を取り上げ、議論する。そこでは、各チームは政策を求める問いに応じて、政府が採用すべき具体的な政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論する。

(2) 討論の形式と時間

ディベートは、以下の形式及び時間によって展開する。

ステージ1	先攻チームによる政策提案	5分間
ステージ2	先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換	5分間
ステージ3	後攻チームによる政策提案	5分間
ステージ4	後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換	5分間
	準備時間	5分間
ステージ5	後攻チームによる論点明示と政策の再提案	5分間
ステージ6	先攻チームによる論点明示と政策の再提案	5分間

4 勝敗の判定と順位の設定

- (1) ディベート経験者だけでなく、未経験者も審判として参加し、評価及び勝敗の判定を行う。
- (2) 評価は、第1に試合全体を評価する試合評価、第2に試合の質を高めるための貢献度の評価ともなるチーム評価を行う。また、2つの評価による評点を合計して、その試合におけるチームの成績得点とし、その点数が高いチームの勝利とする。

- ① 試合評価は、両チームによる討論の全体を対象に、5段階で評価を行う。平均的な場合を評点3とし、優れている場合は評点4、非常に優れている場合を評点5とする。一方、劣っている場合は評点2、評点1へと減じていく。この評点を決定する観点は、以下の3つである。
- ア 全体的にスピーチは聞き取りやすく、相手と対立しながらも協調して考察を深めようとする
 - イ 両チームの議論は重要な論点に集中し、内容に広がりや深まりが認められること
 - ウ 両チームの議論はいずれも、確かな根拠に支えられた結論を主張していること
- 試合評価の評点は、複数の審判が協議して決定する。
- ② チーム評価では、以下の3つの観点によって、政策提案を比較する。審判は、優位だと思えるチームに投票する。複数（奇数）の審判が投票し、1票を評点1として、その合計点数を当該チームの評点とする。
- ア 政策提案では、理念や価値観を明確にし、実行可能で効果的な政策を具体的に提案している
 - イ 積極的に質疑と意見交換を行い、重要な論点を指摘していること
 - ウ 重要な論点に応じて改善し、再提案する政策が当初のそれよりも優れていること

(3) 順位の決定

- ① 中学の部、高校の部に分かれて、対戦する。
- ② 決勝進出チームの選抜などのために順位を決定する場合は、第1に成績得点の合計数、第2に勝利数を基準とする。
それでも同順位のチームがある場合は、抽選による。
- ③ 決勝戦を行う場合は、審判の投票及び観戦者の投票（観戦者票の多い学校を1票とする）の合計より、優勝・準優勝を決める。

5 反則

本ルールに反する行為は反則とし、その程度に応じて該当チームにペナルティーを課す。